

## 2006年7月の東北地方の天候

### 【7月の特徴】

- ・記録的な寡照
- ・東北南部の多雨

#### (1) 2006年7月の概況

東北地方は、梅雨前線や気圧の谷、オホーツク海高気圧の影響で曇りや雨の日が多く、日照時間がかなり少なくなり、気温は平年を下回る日が多かった。盛岡、大船渡、新庄、酒田、若松では7月の月間日照時間の少ない極値を更新した。梅雨前線は本州の南岸付近に停滞することが多かったが、中旬や下旬は一時的に東北地方まで北上し、東北南部では大雨となった。

月平均気温は東北地方で低い。月降水量は東北北部で平年並、東北南部でかなり多い。月間日照時間は東北地方でかなり少ない。

#### (2) 各旬の天候経過

**上旬**：梅雨前線や上空に寒気を伴った気圧の谷、オホーツク海高気圧からの冷たく湿った東よりの風の影響で、東北地方は曇りや雨の日が多くなった。2日から3日にかけては、上空に寒気を伴った低気圧の影響で各地で大雨となり、秋田県では土砂災害が相次ぎ、交通機関が乱れた。また、宮城県では増水した川に人が転落し、一人が死亡した。

平均気温は東北北部で低く、東北南部で平年並。降水量は東北北部で多く、東北南部でかなり多い。日照時間は東北地方でかなり少ない。

**中旬**：前半は梅雨前線が東北北部まで北上し、前線に向かって西よりの暖かく湿った空気が入りこんだため、東北地方は日本海側を中心に曇りや雨の日が多くなったが、太平洋側では晴れる日もあり、気温がかなり高くなかった。13日は東北南部を中心に大雨となり、山形県では鉄道や道路に土砂崩れによる被害が発生した。後半は、梅雨前線が本州南岸付近まで南下したが、気圧の谷やオホーツク海高気圧の影響で、東北地方は曇りや雨の日が多くなった。17日ごろからは、東北太平洋側を中心に低温となった。

平均気温は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で高い。降水量は東北北部で平年並、東北南部でかなり多い。日照時間は東北北部で少なく、東北南部でかなり少ない。

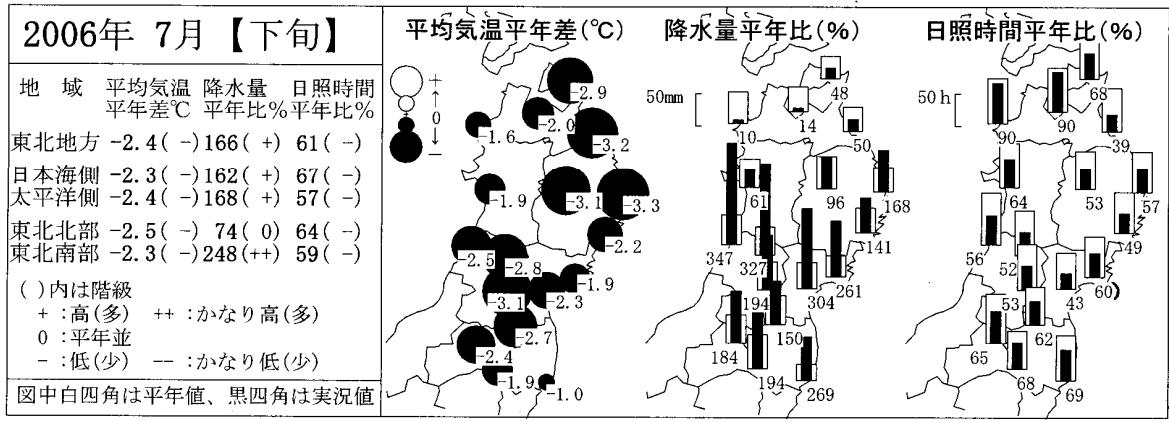
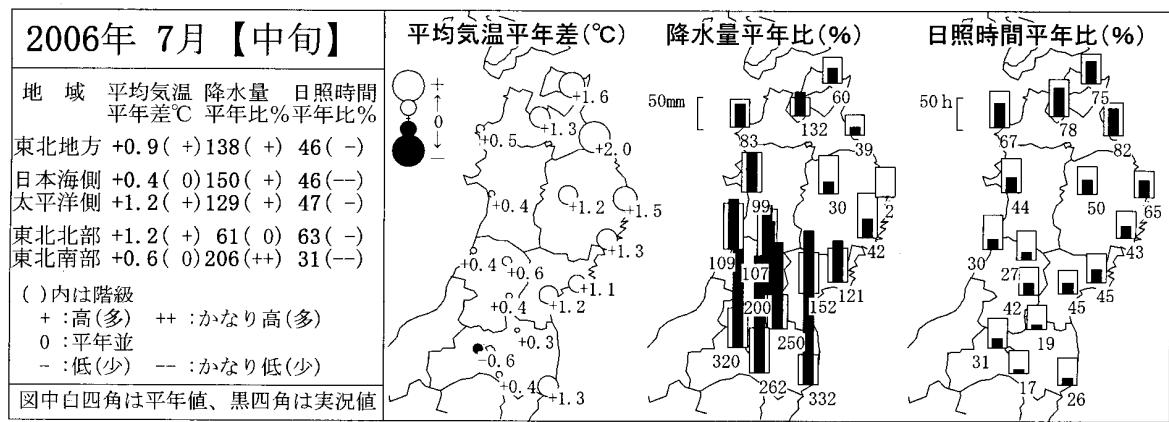
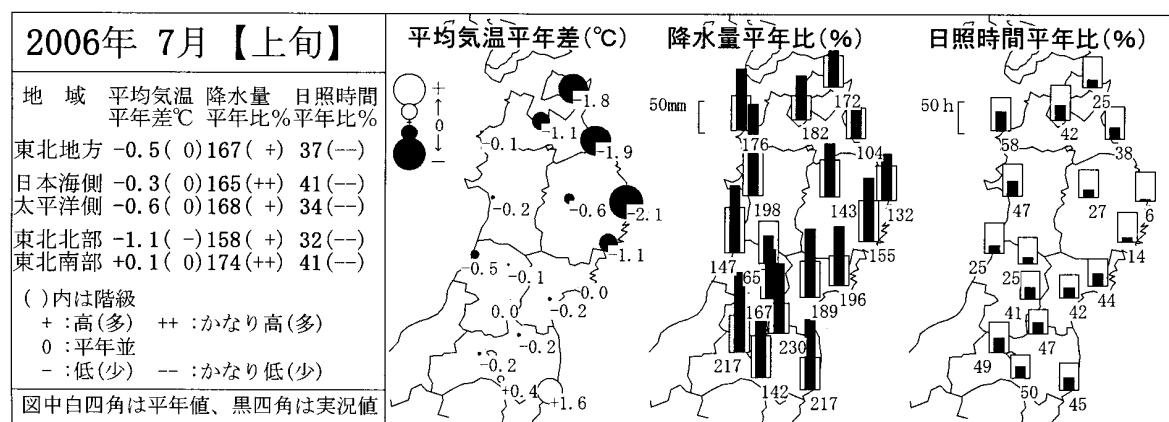
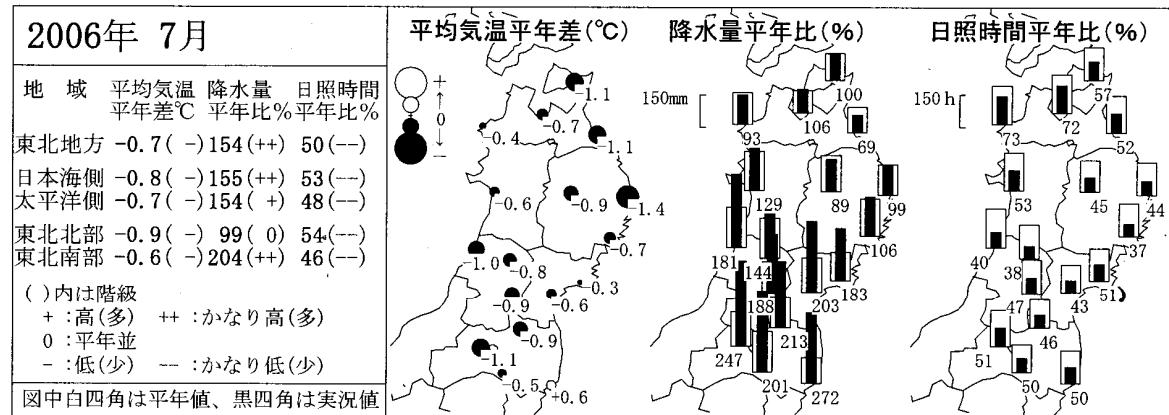
**下旬**：気圧の谷や本州南岸付近に停滞する梅雨前線、オホーツク海高気圧からの冷たく湿った東よりの風の影響で東北地方は曇りや雨の日が多く、気温の低い日が続いた。28～29日は、梅雨前線が東北南部まで北上したため、東北南部では大雨となり、山形県では土砂崩れや浸水の被害が発生した。

平均気温は東北地方で低い。降水量は東北北部で平年並、東北南部でかなり多い。日照時間は東北地方で少ない。

注) 気候統計値は、東北地方にある 17 地点の気象台、測候所、特別地域気象観測所の観測値より求めています。細分地域については 4 ページ目脚注 1 を参照して下さい。

平年値の統計期間は 1971-2000 年です。階級区分については、4 ページ目脚注 2 を参照して下さい。

(3) 2006年7月の期間・旬平均(合計)値の平年差(比)



平年値の統計期間は1971~2000年。

#### (4) 2006年7月の月気候表

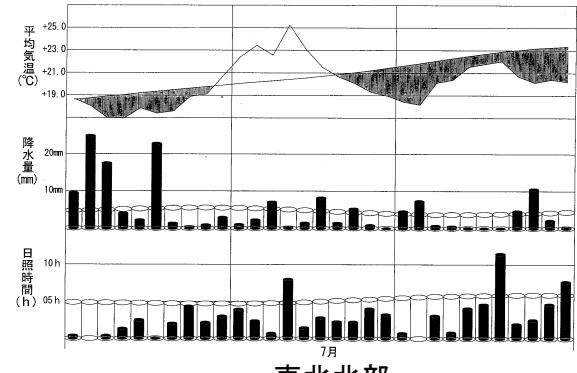
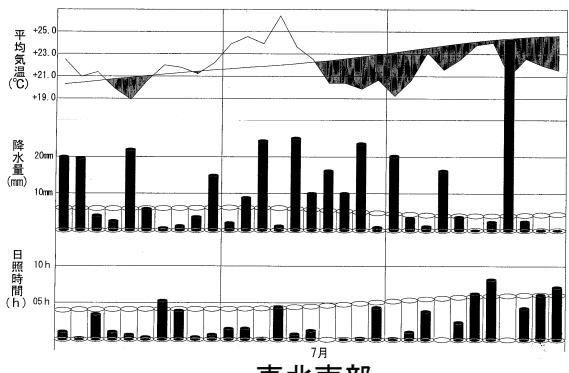
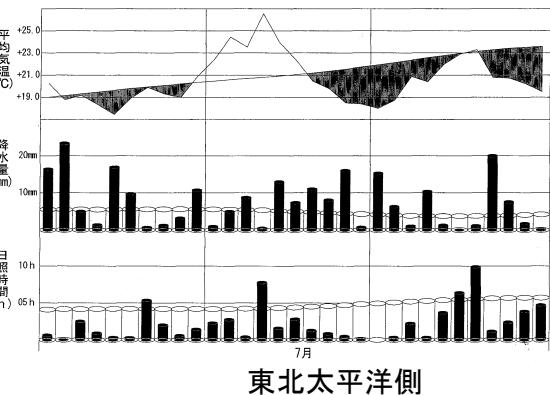
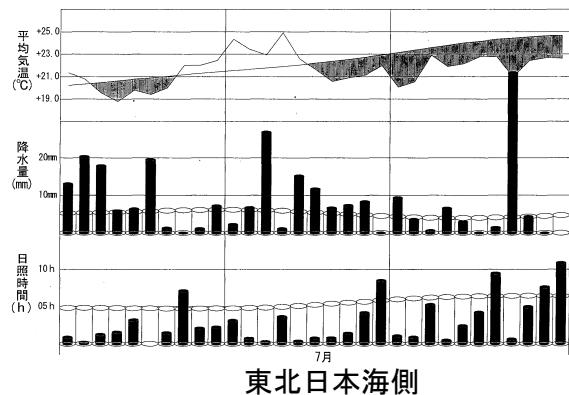
地 点	月平均気温(平年差)			月降水量(平年比)			月間日照時間(平年比)		
	°C	°C	階級	mm	%	階級	h	%	階級
青森	20.4	( -0.7 )	—	109.0	( 106 )	○	127.4	( 72 )	—*
深浦	20.9	( -0.4 )	—	136.5	( 93 )	○	129.6	( 73 )	—
むつ	18.5	( -1.1 )	—	123.0	( 100 )	○	85.6	( 57 )	—*
八戸	19.1	( -1.1 )	—	81.0	( 69 )	○	87.6	( 52 )	—*
盛岡	20.9	( -0.9 )	—	147.5	( 89 )	○	64.1	( 45 )	—*
大船渡	20.3	( -0.7 )	—	180.5	( 106 )	○	55.1	( 37 )	—*
宮古	18.6	( -1.4 )	—	137.5	( 99 )	○	65.8	( 44 )	—*
仙台	21.5	( -0.6 )	—	324.5	( 203 )	+	55.3	( 43 )	—*
石巻	21.0	( -0.3 )	○	239.5	( 183 )	+	76.0	( 51 )	—*
秋田	22.2	( -0.6 )	—	230.0	( 129 )	○	91.2	( 53 )	—*
山形	22.3	( -0.9 )	—	271.0	( 188 )	+	73.0	( 47 )	—*
新庄	21.5	( -0.8 )	—	266.5	( 144 )	+	58.1	( 38 )	—*
酒田	22.2	( -1.0 )	—	337.0	( 181 )	+	72.4	( 40 )	—*
福島	22.6	( -0.9 )	—	308.0	( 213 )	+	61.0	( 46 )	—*
若松	22.3	( -1.1 )	—	395.5	( 247 )	+	86.5	( 51 )	—*
白河	21.5	( -0.5 )	—	375.5	( 201 )	+	64.5	( 50 )	—*
小名浜	22.3	( +0.6 )	○	327.5	( 272 )	+	77.3	( 50 )	—*

・「階級」の記号の意味は以下のとおり

+:高い(多い) ○:平年並 -:低い(少ない) \*は「かなり」を表す

・値の横に ) や ] がある場合には、月別値を求める際に使用したデータ(日別値)に欠測等が含まれていることを示す。)付きの値(準完全値)は通常のものと同様に扱うことができるが ]付きの値(資料不足値)については、値の下に記載した統計日数(統計に用いた、品質が十分な日別値の数)を参考にして、品質を確かめてから使用されたい。なお、日別値がすべて欠測のため値が求められない場合は「×」とした。

#### (5) 2006年7月の日別経過図



気象官署の日別観測値と日別平年値の地域平均(気温:実線と点線、降水量・日照時間:黒い円柱と白抜き円柱)

注 1) 細分地域

東北日本海側：青森県津軽、秋田県、山形県、福島県会津

東北太平洋側：青森県下北・三八上北、岩手県、宮城県、福島県中通り・浜通り

東北北部：青森県、秋田県、岩手県

東北南部：宮城県、山形県、福島県

注 2) 階級は「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3階級とし、それぞれの階級幅は、1971～2000年の30年間において出現した値を等確率(33.3%)に区分しています。また、低い(少ない)方または高い(多い)方から出現率10%の範囲を、それぞれ「かなり低い(少ない)」、「かなり高い(多い)」と表し、補足的に用います。本資料の本文にある階級の表現も、「かなり低い(少ない)」、「かなり高い(多い)」に該当する場合はそのように記述し、細分地域により階級表現が異なる場合は地域を細分して記述しています。

## (6) 2006年7月の極値・順位の更新

(月平均気温、月降水量、月間日照時間の大きい方からの3位まで。)

### 月降水量多い方からの順位更新

順位	地点名	降水量 mm	平年比 %	これまでの最大 mm (西暦年)	開始年	平年値 mm
2	若松	395.5	247	423.1 (1956)	1954	160.1
3	小名浜	327.5	272	589.9 (1941)	1910	120.5

### 月間日照時間少ない方からの順位更新

順位	地点名	日照時間 h	平年比 %	これまでの最小 h (西暦年)	開始年	平年値 h
1	大船渡	55.1	37	58.5 (2003)	1964	150.0
	新庄	58.1	38	72.4 (1966)	1958	154.4
	若松	86.5	51	87.1 (1974)	1954	168.9
	盛岡	64.1	45	65.0 (1941)	1924	143.2
	酒田	72.4	40	89.5 (1966)	1937	179.8
2	山形	73.0	47	69.5 (1957)	1895	155.8

(注) 平年値とは1971～2000年の30年間の値を平均したものである。

## (7) 7月の寡照の要因

7月の大気の流れを見ると、太平洋高気圧は日本の南海上では強いが、北への張り出しが弱く、梅雨前線は本州南岸付近に停滞することが多かった。偏西風は、日本の北で蛇行し、オホーツク海付近は気圧の尾根となっており、地上ではオホーツク海高気圧が発生した。また北日本は気圧の谷となっている。東北地方は、これら梅雨前線や気圧の谷、オホーツク海高気圧からの冷たく湿った東よりの風の影響をうけ、曇りや雨の日が多く、日照時間がかなり少なくなった。

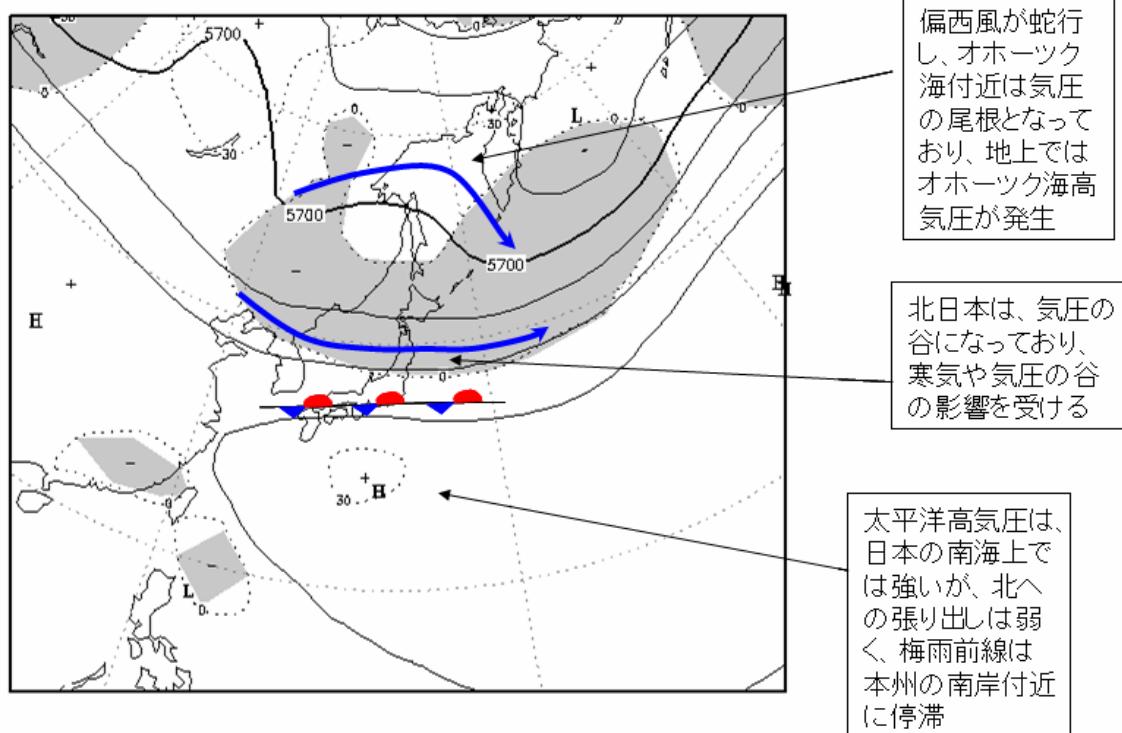


図 7月の月平均500hPa天気図

実線は等高度線、間隔60m。破線は平年差、間隔30m。陰影部は平年より高度が低い領域。青矢印は、平均的な偏西風の流れ。

は、平均的な梅雨前線の位置。